

令和7年4月24日

政務活動費收支報告書

(あて先) 京田辺市議会議長

申請者

\_\_\_\_\_  
次田 典子 印

京田辺市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第5条の規定により、次のとおり提出します。

[収入]

(単位:円)

科目	本年度決算額	備考
交付金	180,000	
合計	180,000	

[支出]

(単位:円)

科目	本年度決算額	備考
調査研究費	0	
研修費	39,960	
広報費	125,166	
広聴費	0	
要請・陳情活動費	0	
会議費	0	
資料作成費	0	
資料購入費	64,300	
人件費	0	
事務所費	0	
合計	229,426	

收支差引残額	0円
--------	----

## 【政務活動費支出明細表】

政務活動費 支出明細表

市議会議員 次田 典子

令和6年度

月日	支出科目	摘要欄	支出金額
		品目名	
6月7日	研修費	交通費(JR京都駅～JR福島駅) (乗車券は往復)	29,880
6月13日	広報費	インク代(按分) 30,580 × 7/8=26,757 改訂前分@2.6756円×5,000部 改訂分 @2.6756円×5,000部	26,757
6月22日	研修費	新幹線指定券(JR福島→JR東京)	4,270
6月23日	研修費	新幹線指定券(JR東京→JR京都)	5,810
7月19日	広報費	新聞折込代(京都新聞)(按分)10,230 × 7/8=8,951	8,951
7月19日	広報費	新聞折込代(朝日新聞)(按分)5,676 × 7/8=4,966	4,966
7月19日	広報費	新聞折込代(朝日新聞)(按分)4,125 × 7/8=3,609	3,609
7月31日	広報費	新聞折込代(京都新聞)(按分)2,475 × 7/8=2,165	2,165
3月3日	資料購入費	日本教育新聞購読料	5,500
3月5日	広報費	議会だより作成費 4.31円×13,000部	56,030
3月7日	広報費	新聞折込代(朝日新聞)	7,178
3月10日	広報費	新聞折込代(京都新聞)	9,900
3月11日	広報費	新聞折込代(朝日新聞)	5,610
3月31日	資料購入費	新聞購読料(京都新聞)	58,800

※政務活動における研修費にかかる報告、調査研究費にかかる視察報告、要請・陳情活動費にかかる報告書、資料購入費における資料、政務活動費を使った作成物(議会報告ビラ等)については、別途、資料も公開しております。

合計支出	229,426
------	---------

令和6年7月19日

京田辺市議会議長 河本 隆志 様

京田辺市議会

議員 次田 典子

### 研修報告書

次のとおり報告します。

研修項目	福島市立公立夜間中学開校を祝う会
実施年月日	2024年6月22日
実施場所	福島県福島市
参加者氏名	次田 典子
費用	39,960円

#### 【内容】

去る6月22日(土)に「福島市立夜間中学開校を祝う会」に参加した。

福島では震災前から福島駅前夜間中学を開校し、行政に公立夜間中学の設置を10年来要望し続けてようやく東北で初めての夜間中学が設立された。今春、福島市立天神スクールがその学校である。

その祝賀会を自主夜間中学などの市民グループが主催するだけでなく、市の教育長や設置校の校長、現場の責任者である教頭も登壇し、開校までの努力と開校したばかりの公立夜間中学で生徒さんたちが懸命に学ばれている現状、そしてこれからの課題について報告された。

その後、奈良市立春日夜間中学校の卒業生である西畠保さんが、夜間中学での学びで、自らが本当に人間らしい生活を取り戻せた経験などをユーモアも混えて体験発表。その体験が「35年目のラブレター」として単行本や映画にまでなることの喜びを率直に話された。

最後に登壇された元文科事務次官の前川喜平さんは文科省の官僚として義務教育機会確保法を2016年に成立させた意義や、退官後、福島駅前自主夜中のスタッフとして関わり続けた体験も含めて講演された。

岡山や兵庫、奈良、神奈川など全国からの参加者と地元の国会議員や福島市と福島県議会と県内各市の地方議員の参加の中で自主夜中と公立夜中が連携して取り組む教育の大切さを確認し合い、有意義な会を終えた。

6月8日、ラクタイ  
新報の記事。

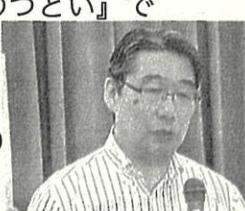


## 祝園で市の姿勢は

7月6日に名古屋市で全国夜間中学校研究会と夜間中学等義務教育拡充議員連盟共催の「夜間中学を増やそう、充実させよう！シンポジウムin愛知」に出席しました。文科省初等中等教育局教育制度改革室長から全国の夜間中学設置・検討状況が話され、夜間中学未設置で設置も未検討の府県は青森、岩手、秋田、山形、山梨、富山、岐阜、京都、広島、島根、山口、愛媛の12自治体（愛媛については検討に入る動きを我々が把握）。また、京都府や京田辺市のような未設置自治体ではニーズ調査など夜間中学の速やかな検討に着手するように2023（R5）年9月14日付事務連絡（依頼）がされているとの報告ありました。府も京田辺市も早急に取り組むべきです。

7月7日（日）前川喜平さんが京田辺に！

『京都府に夜間中学を！市民の2時間以上、憲法と教育の問題についてわかりやすく話してください大変有意義な会となりました。



私の思いや活動をフェイスブックで見ていただけます。ぜひご覧ください！



京都府京田辺市大住ヶ  
4-5-13  
TEL&fax0774-63-63  
Mail n.tsugita@kcn.jp  
ひとステーション  
次田のり子事務所



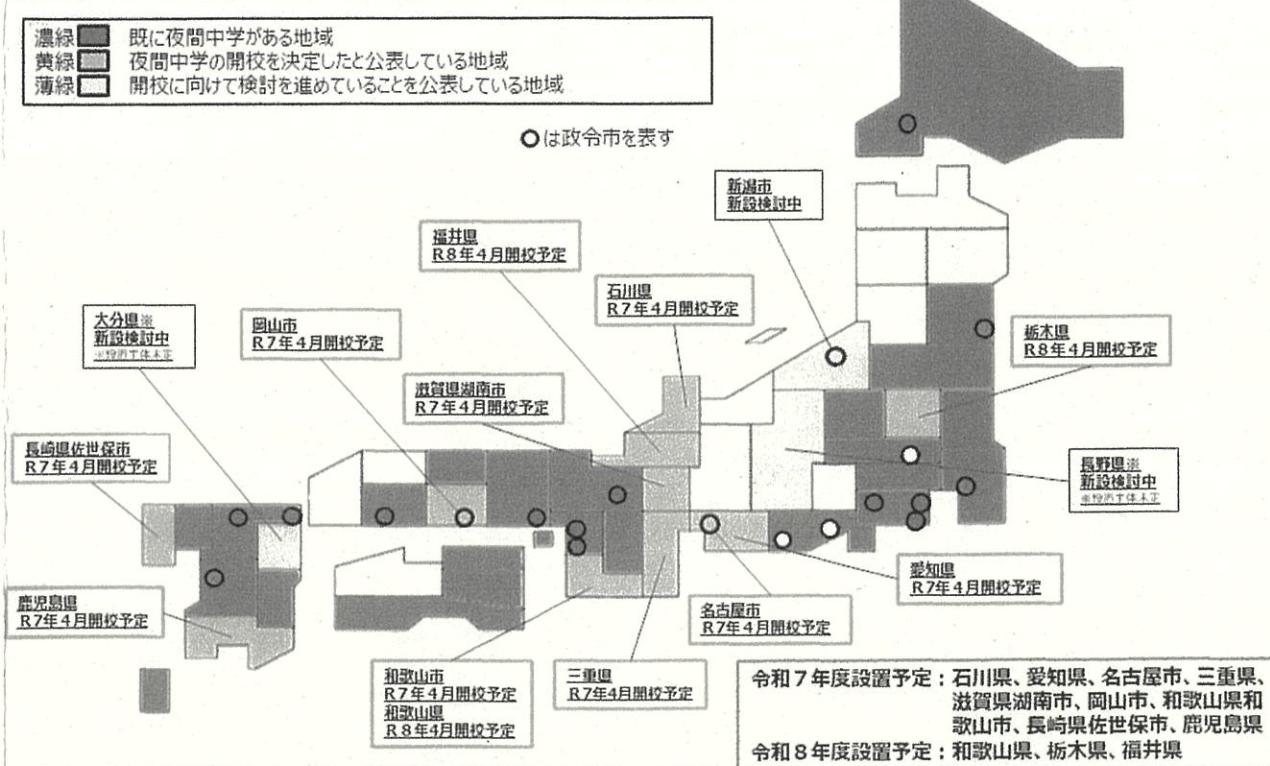
2024.6 次田のり子市議会だよ

山岡京田辺市教育

長、府教委に夜間中学開設のための協議会設置を働きかけると答弁！

同志社山手データセンターや府域の公立  
夜間中学校開設問題で市の姿勢を強く追求！  
市民の暮らしを守るためにがんばっています

既設夜間中学一覧(R6年4月時点) 31都道府県(18)・指定都市(13)に53校



文科省HPからダウンロードした最新の公立夜間中学設置状況です。京都市（指定都市）に洛友中学がありますが府域にはありません。は都道府県と政令指定都市に最低でも各1校夜間中学設置を努力目標に掲げています。

## □ 祝園分屯地増強についての情報公開を防衛省、自衛隊に求めよ！

1939年3月1日未明に枚方市で大爆発（死者94人以上、全半焼821戸、被災世帯4千戸以上という大惨事）を起こした枚方市禁野弾薬庫が急遽移転したのが精華町とにまたがる祝園（ほうその）弾薬庫。移転当時は人口も少なく山間の谷だったがその後、関西学研都市として開発が進み、多くの住宅や施設が建っている。

1950年台には米軍管理下で核兵器も貯蔵していたとの記録も。1960年に米軍から自衛隊に変換される際に精華町と防衛庁（当時）、自衛隊の3者で交わした23項目の「確認書」が残っており「貯蔵施設の拡張はしない」「核を持ち込まない」などと書かれている。防衛省は2023年度に4億円で実施した調査（京田辺市の危機管理官は私の一般質問に地形や地質が弾薬の貯蔵に適しているかの調査と答弁）のほか、2024年度予算に102億円を計上して弾薬庫を祝園で8棟、舞鶴で3棟新設すると明らかにしているが、現状棟数や貯蔵能力は「能力が明らかになるおそれがある」として国会での答弁を拒否している。京田辺市は精華町と連携して防衛省に情報の公開を強くもとべるべきだ。今回の増強が舞鶴の海上自衛隊（イージス艦）との連携や沖縄諸島で増強されているミサイルと連なる軍備強化であり、明らかに「防衛力」の性格を逸脱し、逆にミサイル攻撃の標的となりかねないこと、また貯蔵されたミサイルは他国民を殺傷するための兵器であることを考えても、今回の増強に強く抗議するべきだと私は思う。

京田辺市長は平和市長会に加盟しており、また市議会は2011年に非核平和都市宣言を発している。この主旨からも、再び戦場となることを拒否している沖縄の人たちと連帯し、ミサイル貯蔵庫増強反対の意思を強く持ち、市民の安全を第一に考え対応をするべきだ。

■ 市長 近畿中部防衛局に適宜説明の機会を求めていく。

## □ 同志社山手DC（データーセンター）建設問題について

同志社山手のDC建設に伴う準工専地区への用途変更は、静かな住環境を求めて引っ越して来られた市民の感情を無視。祝園弾薬庫同様、ミサイル攻撃の標的にもなりかねない。

■ 建設部長 業者側には丁寧な説明をするよう伝える。また「自治会、市、業者」の3者協定を締結する。

## 京都府教委に公立夜間中学の早期開設を要請！

去る4月25日、京都府教育庁学校教育課を訪れ、京都府が近畿唯一の公立夜間中学未設置自治体になっている現状を訴えました。話し合いの冒頭、学校教育課長が他の会議から一時席を外して挨拶に来られ、私たち「京都府に夜間中学をつくる会」から公立夜中早期開設を訴えました。



一人でも、一人だからできることもある。いまでも、これからもずっと無所属の次田のり子です！

大きな2番目に、環境衛生センター甘南備園の焼却炉煙突の外壁崩落事故について、（1）事故の経緯について説明を求める。

本年2月に、甘南備園の煙突の外壁が崩落しました。いまだに市議会には壊した車の持ち主との示談の報告以外は何も説明がされていません。知つすぐに甘南備園の事故現場に行きました。

煙突の、部分部分が白くなっていると思いますけれども、そこが崩落の危険性があるところであり、その左側の屋根の辺りが約30メートルの崩落した箇所ということになります。

次の写真をお願いします。約100グラムぐらいの壁が、その今手前左側にある車の左側辺りに落ちました。車の屋根にまず落ちて、その前に、前のボンネットに落ちて地面に落ちたと聞いています。そういったことも、その程度のことは分かりましたけれども、やはりしっかりと市のほうから説明を受けたいと思います。

（2）そもそもこれは2月に事故が起こっているにもかかわらず、なぜちゃんと公表しないのか。私はよく理解できません。その点もお伺いしたい。



（2024年6月議会の一般質問から）

左の写真は補修部分（白い所）も生々しい現焼却炉の仮補修部分。上は破損した車が駐車していた職員駐車場。事故報告直後の5月27日に次田が撮影。

- ・「子どもを真ん中に」という聞こえのいいキャッチフレーズより、教育や教育環境の充実こそが「眞の子ども支援」だと私は思います。
- ・高齢者や身体の不自由な人たちの命を守り、楽しく暮らせるように頑張ります！

甘南備園については現地に赴いて数々の不適正をチェック！





# 9月議会一般質問で厳しく追及 止めよう！ 北陸新幹線！

□終の棲家（ついのすみか）奪う大深度工法！

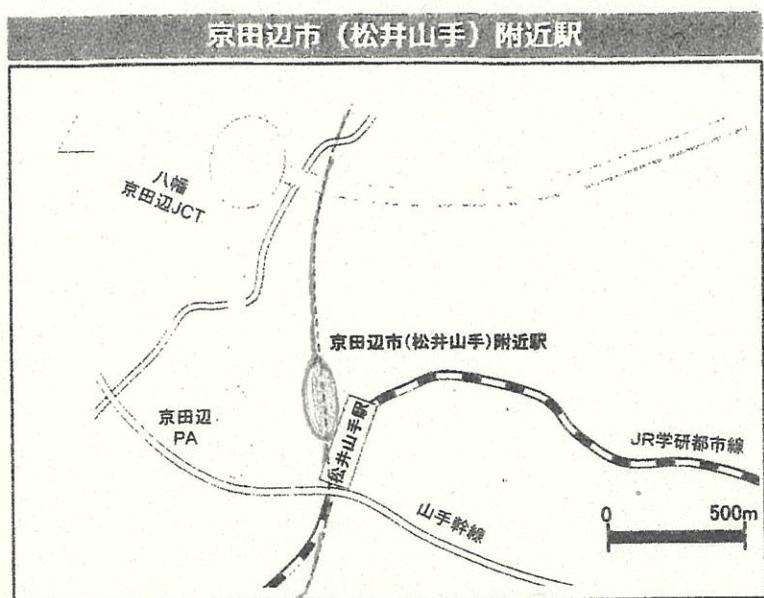
松井山手周辺は閑静な住宅地であり、その環境の良さを求めて引っ越して来られた人たちの住まいを奪う権利が市長にあるのかを市長に聞いた。また費用対効果が

「1」を下回る赤字必至の北陸新幹線に巨額の私たちの税金（計画当初の倍増、5兆円超えは必至）を投入する与党プロジェクトチームによるルート決定は許せないと強く批判しました。

■上村市長は「自ら大深度工法による駅建設を国に求め、

新幹線の地下駅は松井山手駅が初めてだ。旧村の鎮守の社の参道などを回避するようにも要望した」と誇らしげに答弁。

大深度工法は長年その危険性が指摘され、憲法29条の財産権（財産権の不可侵と公共の福祉を優先させる場合の正当な補償が必要）に抵触すると言われています。2020年10月18日に調布市で外環道建設に伴う陥没事故が起きており、リニア新設工事も頓挫しています。つい先日も広島市で水道管敷設時のシールド工法による陥没も起きています。市長と市当局はこれらの事故を知らないかのような答弁に終始しました。



北陸新幹線事業推進調査に関する連絡会議ホームページより

高齢化進む北部地区で  
宝生苑のお風呂を廃止！



大住ヶ丘や松井ヶ丘など高齢化が進む地域のお年寄りの憩いの場、宝生苑のお風呂などを廃止し高齢者の楽しみだったカラオケなども楽しみにくくなる計画が市により一方的に進められています。宝生苑は市の他の施設よりも開設年は新しい施設です。サークルなどで宝生苑を日常的に使っている人たちも寝耳に水で、日頃からこの施設に愛着を持っており、施設の場所や中身をよく知っている北部の市民にも計画を知らせず、全市一律にパブリックコメントを募るなどのやり方に北部住民の不信感は募っています。今一度、周辺住民を中心に、丁寧なアンケート調査などを実施するべきです。

児童館機能も狭くなっているのなら、廃園となる松井ヶ丘幼稚園跡地などに移して充実すべきですし、子どもの多い松井山手周辺からも通いやすくなります。

市は当初の老人福祉施設と児童館の併設が失敗だったのなら潔くそれを認めるべきです。

安易に児童福祉法や老人保険法などのしばりをはずし、民間委託の人減らしや有料化による使用料徴収などを急ぐためなら、このような市の姿勢は決して許されません。

ついに公立夜間中学新設に府が動き出す  
9月25日の府議会答弁で前川府教育長が6年前のニーズ調査のやり直しを表明しました。「夜間中學設置のニーズなし」との見解からようやく一歩を踏み出したのです。京田辺市教委は「市教委の動向を注視し、動きがあれば対処する」との答弁を実行するべきです。



またまた市役所の隠蔽、事なれ体質がニュースとなりました。PFAS問題です。朝日新聞京都版は2月8日のトップで報じているのでご覧ください。

この発端は市内の河川12ヶ所中10ヶ所で基準値以上のPFASが検出されたことです。市は議会運営委員会協議会で提出された資料を2月6日まで回収させてほしいと依頼。私は回収に即時抗議しましたが建設経済委員長が認めたので一たん矛を納めました。2月6日に市は改めて十分な理由説明もなく、約束を違え再延期を全議員に依頼してきたのです。市のやるべきことは農業委員会や当該区長への配慮だけではなく、PFAS検出の原因調査と市民への情報の公開だと思います。例えば沖縄と同様に基地=祝園弾薬庫が原因なのか、府境いの大きな工場なのか、さらに2000年に問題となった枚方市が埋めた大量の汚泥なのか。臭いものにフタをするのではなく臭いものを早期に特定し除去するのが市長や市議の本来の仕事ではありませんか？私はそのように思います。（下の編集後記に続く）

## 市役所の隠蔽体質 ゆるせへん！

### 編集後記

・埼玉県八潮市で起った陥没事故は直径約5メートルの下水道管が原因です。明日は我が身に起こるかも知れないと感じさせた事故です。また、松井山手周辺に計画されている北陸新幹線の大穴は直径10～13メートル。3月議会で「八潮市の事故をどのように考えるか」

「松井山手に大穴を掘りだいじょうぶなのか」と、上村市長に問い合わせたい。さてどこまで誠実にお答えになるのでしょうか。私は2月に東京の外環道陥没被害地域の視察に行ってきました。（P3関連記事）

・PFAS問題が深刻化しています。少し古い資料ですが枚方市汚泥処分地=現甘南備園の西約800メートルに面積1万2千500平方メートル（埋め立て量10万立方メートル以上）について、その後、枚方市と田辺町（現在は京田辺市）の協定が誠実に守られているのか、汚泥から硫化水素などとともにPFASが流出しているのではないか？枚方市へ再調査を要求するべきです。

なかなかこのニュースをお届けできません！  
ポスティングボランティア募集中！ また直接郵送も可能です。ご連絡ください！

京田辺市大住ヶ丘  
4-5-13  
TEL/fax 0774-63-6394  
Mail n.tsugita@kcn.jp  
ひとステーション  
次田のり子事務所



いまこそ市民の力を！

つぎ  
た  
**次田のり子**

2025年春号



少数与党（自公）だけで進める北陸新幹線計画。4階建ビルくらいのトンネルを地下で強引に掘り進める工法は東京外環道路（調布市つづじヶ丘）やリニアモーター（岐阜県瑞浪市）でも周辺住宅に多大な被害を与えています。福井一奈良間はお水取りの若狭井でもわかるような地下水が流れています。また久御山の小椋池下を掘り進めるのはさらに危険です。松井山手新駅横には天然温泉もあるのですから水脈にも活断層にもブチ当たらぬ保証はありません。鉄道・運輸機構は市内のボーリング調査の結果を公表し、周辺住宅の安全を確証出来ないなら計画を撤回するべきです。（P2へ続く→）

北陸の人たちは米原ルートによる早期で安価な延伸を望んでいる筈です！

# 9月議会一般質問の報告

## □終の住居（ついのすみか）奪う大深度工法！

松井山手周辺は閑静な住宅地であり、その環境の良さを求めて引っ越して来た人たちの住まいを奪う権利が市長にあるのかと市長に問いました。また費用対効果が「1」を下回る赤字必至の北陸新幹線に、巨額の私たちの税金（計画当初の倍増、5兆円超えは必至）を投入するのは許せないと強く批判しました。今や少数となった与党プロジェクトチームのなし崩し的なルート決定や、米原ルートで早く延伸してほしいという北陸の人たちの願いを無視し、「国策」だからと答弁する上村市長の姿勢は許せません。

推進派の自民一新会も彼らの活動報告では北陸新幹線問題に一言も触れていません。田中角栄時代の新幹線整備計画やリニアモーターカーへの巨額の税金投入は、若い人たちにツケを残す大型プロジェクトです。市民みんなで論議する必要があります。少数与党となった今、5兆円越え必至と言われる北陸新幹線計画の見直しは絶対に必要です。埼玉県八潮市では下水道管で陥没事故が起き、周辺住民を危険に陥れているのに、松井山手にトンネルを掘ることを

「シールド工法は安全」と言い張る企画政策部長や、誇らしげに「大深度工法による新幹線駅は松井山手が初めてであり、私が大深度工法の導入を要求した。」と豪語する上村市長の見識を疑います。（右下に大深度工法事故写真）

## □地域の実態を見ない宝生苑のお風呂の廃止！

上村市長は市の施設としては二番目に新しい宝生苑を大改造して、老人福祉法に基づく高齢者福祉施設をなくそうとしています。「誰もが使える」とかやたらに「未来、ミライ」と聞こえの良い言葉を振りかざしますが、実際は、南部住民センター（通称ミライロ）のように高齢者には使いにくく、また、民間委託運営で行おうとしています。高齢者が外出しやすい街づくりを訴えてきた私の答弁は「地域にお年寄りの居場所づくりを」の一辺倒でした。その貴重な居場所を高齢者から奪い去る市の福祉計画は時代に逆行しています。高齢化率がますます高まる北部住宅地唯一の老人施設を守り、子どもの多い松井山手により近い児童館を松井ヶ丘幼稚園跡地に作るべきです。（以上は9月）



文教福祉専門委員会に請願提出！

# 3月議会

## 参考人に西畠保さん！

3月議会の文教福祉専門委員会に「京都府に夜間中学をつくる会」から京田辺市への公立夜間中学の早期設置を検討するための請願を出します。紹介議員は私で、参考人には映画「35年目のラブレター」の主人公のモデルの西畠保さんが意見を述べに来てくれます。



西畠さんは2月9日に社会福祉センターで行われた「35年目のラブレター」公開記念トークセッションで多くの聴衆を感動させてくれました。

2024年10月現在、文科省の調べでは全国に53校の公立夜間中学があり、近畿地方の府県域で公立夜間中学に通えないのは京都府だけになりました。京田辺市は事あるごとに「広域の施策が必要」と府が動くのを何もせずに待ち続けていますが香川県三豊市（人口6万人代）や長野県軽井沢町（人口2万人代）でも市町単独で公立夜間中学設置の動きを見せています。

そもそも小中学校は義務教育校ですから市町が設立して当たり前です。まして30年間、学びの場を求めている中国残留孤児や義務教育未修了者の実態を調査もせずにほったらかしにしておくことは許されません。



上は現在 下は五年前の事故直後の陥没現場

2月16日に調布市つつじヶ丘の東京外環道陥没現場を訪れ外環道の大深度工法の危険性を指摘し反対運動を続けておられる丸山重威さん（元共同通信記者）に現地を案内していただきました。武者小路実篤記念館のすぐ近くの閑静な住宅地がトンネル工法により無惨な現状になっているこの工事の危険性や非人道的な対応にビックリして帰ってきました。（陥没事故後の自宅を指差す丸山さん）

東京外環道陥没現場を  
視察、丸山重威さんに会う